

校長室だより

# 春日

(しゅんじつ)

校長 清武 直人

## 人も花も

花は太陽に向かって花卉を開き  
人は笑顔に心を開く  
人も花も  
温かさを求める

## 伸び伸び生きるために

ホンダ自動車の創業者本田宗一郎さんが昔「ブレーキは何のためにあるのですか。」と尋ねられたそうです。その時、本田宗一郎さんは、次のように答えたそうです。

「車を速く走らせるためです。」  
「なるほど！」です。効きの悪いブレーキでは、心配で、思いきってスピードを出すことができません。

この話を聞かれた金平敬之助さん（元セミナーズ会長）は、次のように言われたそうです。

「それでは、我慢する力は、伸び伸びと生きるためですね。」

これもまた「なるほど！」です。

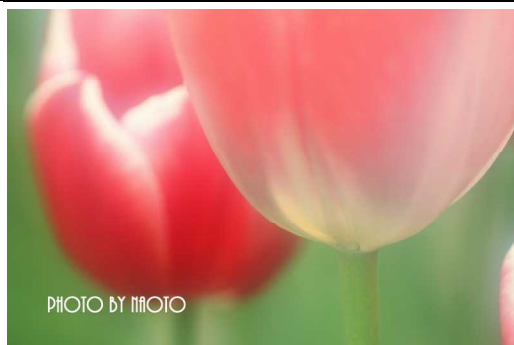
最近のニュースを見ていると、いじめに青少年犯罪の凶悪化。青少年と言わず、大人の犯罪も非常に自己中心的で残虐さを増してきています。自分の欲望や感情を抑えることができないのです。効きのよいブレーキを心の中に備えないままに世の中を走り出した結果です。

さて、我が子を振り返ってみましょう。子どもの成長に合わせながらちょうどいくらいのブレーキを持たせてきたかなあ・・・。

幼い時にあまり効き過ぎるブレーキを持たせると冒険心を失わせてしまうことになりま。善悪の判断が付き始める頃にブレーキの踏み方を教えてあげないと、周りのお友達とぶつかってばかりという事になります。

我が子がいいブレーキを持っているなあと感じたら、ちょっと危なっかしくても子どもを信じて見守ることができます。

私のブレーキも時々点検しよう。お酒を飲むと、ちょっと効きが悪くなる。



## 拝啓父上様

私は、大学生時代は親元を離れ、一人暮らしをしていました。今から40年ほど前のことです。

一人暮らしも落ち着き、自動車の運転免許を取ることにしました。ほとんど落ちる人はいないと言われた仮免の学科試験に落ち、友達に馬鹿にされながらも何とか車の免許を取ることができました。

運転免許を持つと、やはり車に乗りた。自分の車が欲しい。

滅多に家に電話をすることもなく、ましてや手紙を書くなんて事もない親不孝な子どもでした。しかし、この時ばかりは父親に手紙を書きました。

「拝啓父上様・・・」

実は、当時「拝啓おふくろ様」というテレビ番組がはやっていたのです。（この番組を知っている人はかなり古い！いや、失礼）

さて、手紙で熱く熱く父親に自動車を買ってくれとねだりました。私の心が通じたのか、父親から返事が来ました。

「すぐ送る。」

嬉しさのあまり飛び上がりました。しかし、後日送ってきたのは小さなミニチュアカーでした。

父は、私の心にまだ十分な心のブレーキが備わっていないことを知っていたのでしょうね。

今では、あの時送られてきたのがミニチュアカーであったことに心から感謝しています。